

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

多気町教育委員会

令和6年4月18日に、小学校第6学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果の概要について、以下の通りまとめました。結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解・ご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている児童質問紙調査から見られた児童の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取組についてお示しさせていただきます。

教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査は、小学校では国語・算数の2教科で実施され、多気町立小学校第6学年の児童125名が参加しました。調査結果については、全ての教科において全国の平均正答率を下回る結果となりました。

以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

【小学校 国語】 ◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 ()内の記号は、問題番号

- ◇ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができている。
- ◆ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。



<おおむね理解している問題>

- ◇ 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものととして、適切なものを選択する問題 (2一(2)) (正答率：約9割)
- ◇ 【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものととして、適切なものを選択する問題 (3二(2)) (正答率：約8割)

<課題がみられた問題>

- ◆ オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する問題 (1二(2)) (正答率：約4割)
- ◆ 【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する問題 (3四) (正答率：約6割)

大問1二 (2)

オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。

問題

和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。

和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

オンライン交流の場面 (一部抜粋)

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んでことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

【交流前に準備した和田さんのメモ】

村木さんが知りたいこと	自分が伝えたいこと
図書委員会の取り組み ○読書イベント ・月に1回 ・クイズなど	○アイデア給食 ・年に2回 ・自分たちが考えたことだて
これは伝えたい	地いきならではの取り組み ○総合的な学習の時間 ・海の生き物の調査 ○すなはまの清そう活動 ・学期に1回
質問されたら答える	○音楽クラブの演そう会 ・たんだの楽器は木さん ・地いきの行事に参加
用意するもの ・クイズが書かれたカード ・海の生き物の写真	

「R6全国学力学習状況調査 小学校国語」より

正答率：
42.4%

課題がみられた問題

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

反応率 (%)

32.8

42.4

5.6

19.2

誤答例の分析と課題

【1】を選んだ理由としては、発言⑥の言葉や「そうなんです。」と和田さんが相手の話を受け止めている状況を『引用している』と判断した児童がいたということが考えられます。

<今後の学習の手立て> 「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する学習の機会を大切に」

資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要です。音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などには、資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量を予想し、どのような資料を用意すればいいかを考える場面を設定することを大切にしていきます。

また、実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することが大切です。その際、聞き手の反応を見ながら表現している様子を、映像ややりとりのモデルなどで確かめたり、実際に交流する前にやりとりの練習を行う時間を確保したりするなどの学習の機会を大切にしていきます。

◇直方体の見取図について理解し、かくことができている。
◆球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。



<おおむね理解している問題>

- ◇はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ問題 [1 (2)] (正答率：約9割)
- ◇作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ問題 [3 (1)] (正答率：約9割)

<課題がみられた問題>

- ◆直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題 [3 (3)] (正答率：約3割)
- ◆家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題 [4 (3)] (正答率：約3割)

大問3
(3)

直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。

直径22cmの球の形をしたボールがあります。

このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。

この立方体の形をした紙の箱の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

正答率：28.0%

回答類型	反応率
1 22×22×22	28.0
2 11×11×11 44×44×44	0
3 22×22	8.8
4 11×11 44×44	0
5 22×3	6.4
6 11×3 44×3	0
7 3.14を用いた式	14.4
9 9 上記以外の回答	30.4

「R6全国学力学習状況調査 小学校算数」より

課題がみられた問題

誤答例の分析と課題

【7】のように解答した児童の中には、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉えられず、球の直径や半径と円周率を使えば立方体の体積を求めることができると判断した子がいたと考えられます。

<今後の学習の手立て> 「図形を構成する要素を見出し、活用する学習機会を大切に」

図形の体積や面積を求める際、情報を自ら選び出すためには、図形の意味や性質の理解を深め、図形を構成する要素を見出し、活用できるようにすることが大切です。身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見出し、体積や面積を求めるために必要な情報を判断する学習の機会を大切にしていきます。

児童質問紙調査からみられた子どもの姿

多気町の子どもたち

自分には
よいところがある
86.4%
(全国 84.1%)

人が困っている時
進んで助けている
96.8%
(全国 92.7%)

人の役に立つ
人間になりたい
97.6%
(全国 95.9%)

学校に行くのは
楽しい
85.6%
(全国 84.8%)

地域や社会をよくするために
何かしてみたい
82.4%
(全国 83.5%)

※児童質問紙で肯定的に回答した割合が高かった主な設問より

今年度の調査においても、学習習慣・生活習慣ともに肯定的に回答する児童が多いという結果でした。上記の項目からも多くの子どもたちが安心できる環境の中で学校生活を送っていることがうかがえますし、地域の行事に参加するだけでなく地域のために何かできることはないかを考えている頼もしい姿があることもわかります。日々あたたかく見守り、しっかり支えていただける保護者と地域の方々の力の大きさは本町の強みの一つです。児童一人ひとりが「自分のことを好きになること・自分に自信を持つこと」は学力向上を支える大きなポイントです。今後も家庭・地域の協力のもと、すべての子どもたちが「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できるよう、本調査の結果を学校の職員全体で共有し、個々の教師が授業の工夫・改善へ、活かしていけるよう取り組みを進めていきます。